

Ⅱ-2

保育人材確保と保育のしごとと啓発事業

現状と課題

- 大都市においては、保育所待機児童解消のため保育所や分園等の設置がすすめられ、併せて、保育士不足が大きな問題となっている。一方で、東京都内には、数万人の潜在保育士（保育士国家資格登録者のうち、保育士として働いていない人）がいるといわれている。
- 東京都福祉人材センター人材情報室でも平成21年度より東京都から保育人材確保事業を受託し、保育士の就職説明会や就職支援セミナー等を実施している。そこでは、「就労したい」と考えている有資格者と保育所のよりふみ込んだマッチングのしくみを構築していくことが求められている。
- 新卒学生が仕事を選択する際に、求められている仕事の内容を正しく理解し「生涯にわたって働くイメージができるか」という視点が重要になる。また、保育士自身が子育てと仕事を両立していくための方策を考えていく必要がある。
- さらに、社会構造の変化や子ども・子育て支援新制度により保育士にさらなる専門性が求められている。親支援や発達障害の子への対応、幼児教育も期待されている状況がある。

事業のねらい

保育人材の確保をすすめるため、以下のしくみを構築する。

- (1) 保育関連団体と連携し、職場選びと職場のミスマッチによる離職の防止を図る。
- (2) 保育士のキャリア形成を支援するための研修の場を充実する。「働き続けられる、魅力ある職場づくり」のための職場改善により、人材確保、定着につなげる。
- (3) 中高生を対象に、保育のしごとをPRし、求められている保育士の役割や専門性について啓発することにより、将来的なミスマッチを防ぐ。

想定される実施事業

(1) 保育関連団体と連携した保育人材確保の充実強化

保育人材確保のため、これまでの取組みを強化するとともに、より効果的な方策を検討する。参加の一定条件や受入れのカリキュラム等を整理し、職場体験が可能な施設に求職者が就職前に職場体験をできるようにすることなどが考えられる。

(2) 保育士確保のための組織づくりの検討

福祉業界全体を対象に取組んでいるマネジメント研修への保育分野からの参加を引き続き促進する。合わせて福祉業界で取組まれている組織診断や解決方策を保育分野に焦点を絞って改めて提示するため、保育所固有の事情に合わせた実践可能な人材確保方法があるかを検証していく。

保育分野に固有な研修ニーズがあれば、保育所において具体的な人材確保対策を講じたプラン作成までを行えることを研修の到達点として、研修事業を試験的に実施する。その研修事業の効果測定、評価と事業改善を行った上で、本格実施をする。

(3) 保育のしごと啓発事業

中高生向けに「保育のしごと」を理解してもらうための啓発資料を発行し、授業や進路指導の場面で活用できるようにする。内容は、子どもとの関わりや1日のスケジュール等だけでなく「親への支援」「発達に障害のある子どもへの支援」など具体的に盛り込み、「しごとを通じて自己が成長できる‘やりがいのあるしごと’」であることをアピールする。

※保育のしごとから始め、将来的には高齢・障害の分野にも取組みを広げていく。

年次計画

25年度	26年度	27年度
① 保育関連団体と連携した保育人材確保の充実強化 ・ 保育人材確保事業の充実	・ 保育関連団体と連携した取組み	・ 評価、今後の事業実施検討。
② 保育士確保のための組織づくり ・ マネジメント研修への保育所の参加促進	・ 保育分野固有のニーズをふまえた研修の強化	・ 研修事業の効果測定を行った上で * 研修事業の改善 * 次年度以降の継続事業について検討。
③ 保育のしごと啓発事業 ・ 発行方法、内容の検討、取材先、発行次期、内容、配布方法の検討	・ 発行、活用依頼	

事業の概況

